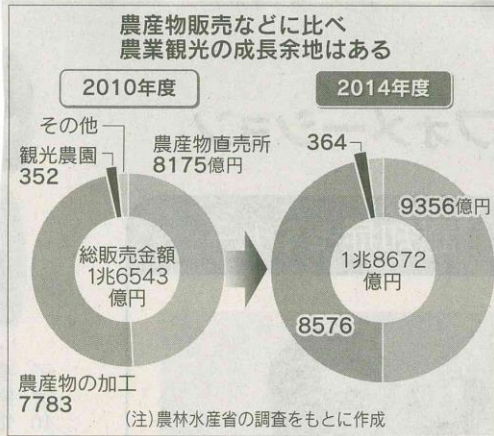


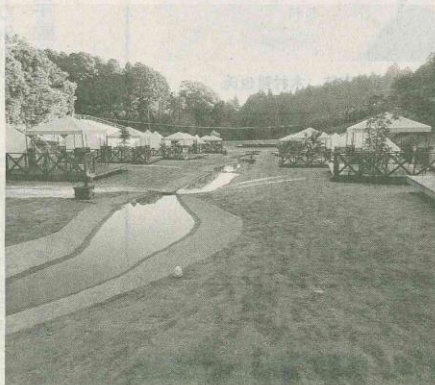
農業×観光 地方に誘客

大手旅行各社が農業で地方の観光市場を開拓する。近畿日本ツーリストを傘下に抱えるKNTCTホールディングスは、農園を使った新型リゾートの経営に参画。日本旅行は農業体験を組み込んだ修学旅行を企画する。各社は訪日外国人を含む誘客の伸びしろは地方にあるとみている。農業を魅力ある観光資源として磨き、旅行需要を底上げする。

大手旅行各社



近ツー 農園リゾートに参画 日本旅行 修学旅行で農業体験



ザ・ファームでは、快適な滞在とキャンプ体験をあわせて提供

KNTCTは、千葉県香取市で農園を使ったリゾートを手がけるザ・ファームの経営に参加した。同社が実施した第三者割当増資を引き受け、11%出資した。ザ・ファームは宿泊施設での快適な滞在と、キャンプ体験を組み合わせた「グランピング」と呼ばれる新たなリゾートを手がける。施設ではハンモックに

揺られながら星の観望などのキャンプ体験ができる。農園での収穫体験やとれたて野菜を使ったバーベキューも楽しめるようにした。宿泊料金は季節によるが大人1泊で7560円から。親子連れで訪ねたある母親は、子供が苦手なニンジンを食べていたことに「びっくりした」という。野菜は施設内の農園でとれたため、「野菜本来の味に感動したのだろ」と喜んでた。日本旅行は滋賀県で農業観光を手がける。修学旅行で農業を体験できる

プログラムを「JAおつま富士（同県守山市）」と共同開発した。ナスや菜の花といった地元特産の野菜の種まきや苗の植え付けをしたり収穫したりする。収穫した食材を使ったオリジナルの弁当も作る。来年以降に実施する修学旅行向けに提案していく方針だ。

JTBはイオンの子会社と組み、高級果物など日本の特産品を海外に輸出し、その特産品に興味を持った外国人を産地に送客する事業を始めた。第1弾として京都府京丹後市の「白岩恒美農園」で栽培した梨などを、イオン子会社が手がける越境EC（電子商取引）サイトを通じて香港に輸出販売した。9月にはシンガポール向けにも展開する予定。購入者に旅行情報を発信するほか、産地を巡って果物狩りをするツアーを企画する。

都市住民を農山漁村に呼び込む狙いから1995年に農山漁村余暇法が施行された。農林水産省の調査によると、農産物直売所が年9000億円を超え、市場を形づくるなか、農業体験ができる観光農園の市場は約360億円、農家民宿は約500億円にとどまる。農村体を盛り込んでいる。旅行会社や地方自治体、農業事業者を巻き込んだ動きが活発になりそうだ。

政府は3月、訪日外国人客を2020年に現行2倍の4000万人に増やす新たな目標を掲げた。訪日客の拡大策の一つとして農業観光の後押しを盛り込んでいる。旅行会社や地方自治体、農業事業者を巻き込んだ動きが活発になりそうだ。